

<白金標準、下げ止まりから 4500 円へ・・・>



(出所：オアシス)

景気商品の白金標準先物は、債務上限問題に絡みデフォルト・リスクが景気減速懸念に結び付く事から高値が抑えられ、またインフレ抑制の金利引き上げが景気後退（リセッション）に結び付く可能性を受けて売られていたが、中国製造業 PMI が前月を下回る 48.8 となるなど中国経済に対する失望から 4376 円まで下値を模索している。

ただ片方では、南アフリカの電力問題は依然と鉱山稼働率を押し下げるステージ 6 を行ない続けるなど、需給バランスは更なる供給不足へと膨らみを見せられると思われ、様々な要因があっても NY 白金は 1000 ドルで下げ渋る値動きを見せている。

特に週末の雇用統計で、非農業部門就業者数が 33.9 万人増と大幅な改善を示すなど、市場に蔓延化していた景気後退懸念も後退するなど、白金標準先物で一時 4400 円を下回るも終盤には買い戻しを受けて 4400 円を回復している。

特に NY コメックスのプラチナ先物・オプションのネットロングは 12.7%増の 34.68 トンまで拡大し、また大阪取引所の白金標準先物の海外投資家の取組みでも 5006 枚の買い越しを維持するなど強気の姿勢を保っている。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** と **シグナル** が下げているが、RCI では **短期** が下げ止まりながら **長期** を上回る確率を高めており、強気のクロスが発生した場合は 4500 円へ向けた上昇が強まると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,975,000 円(2023 年 6 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 6 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>